[課程―２]

審査の結果の要旨

氏名　成瀬　昂

本研究は、看護補助者として介護職員を加配し、必要に応じて訪問看護の場面に同行・補助するシステムを導入することが、そこに就労する訪問看護師のワークエンゲージメントに及ぼす影響を評価するため、訪問看護師を対象に非ランダム化比較試験を行ったもので、下記の結果を得ている。

1. 看護補助者（介護職員）の同行が必要と管理者によって判断された訪問に対し、看護補助者（介護職員）が同行し看護師を補助することによって、訪問看護師が単独で訪問した時に比べて、訪問看護師は自身が提供したケアの適切性に対する満足度が高く、ケア提供による身体的な負担が低くなった。また、訪問看護師の滞在時間は、訪問看護師が単独で訪問した時に比べて、看護補助者（介護職員）が同行した訪問の方が、平均して 10 分短くなっていた。
2. 看護補助者として介護職員を加配し、必要に応じて訪問看護の場面に同行・補助するシステムを導入した訪問看護ステーションの訪問看護師は、6 カ月間の介入期間終了後のワークエンゲージメントの得点がわずかに上昇していた。一方、システムを導入していない訪問看護ステーションの訪問看護師は、6 カ月間の観察期間終了後にワークエンゲージメントの得点が低下していた。

以上、本論文は、看護補助者として介護職員を加配し、必要に応じて訪問看護の場面に同行・補助するシステムは、訪問看護師の負担軽減とワークエンゲージメントの改善を通じて、訪問看護師の就労環境や質の高い訪問看護サービスの提供体制実現に資する可能性があることを示した。本研究は、訪問看護師という新しい対象の就労環境、および提供サービスの質の改善の向上に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。